

碧いびわ湖の事業にご支援とご協力をいただいているすべてのみなさまへ

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

2013年度活動レポート

日頃より、碧いびわ湖の事業へのあたたかいご支援とご協力をたまわり、誠にありがとうございます。

「子どもと湖が笑ってる未来へ」を合い言葉に、毎日の暮らし、住まい、地域コミュニティを、すこやかで安らかなものにつくりなおしていく私たちの活動は、会員の自主的な活動と、みなさまからの会費、ご寄付、事業のご利用、ならびに事業資金の貸付（碧いびわ湖基金）によって支えられております。

おかげさまで2013年度は、前年度以上にさまざまな成果をあげることができました。それらの成果をみなさまと分かち合うとともに、次年度の事業の広がりや深まりを展望するために、一年間の活動報告をとりまとめさせていただきました。

ご一読いただき、今後も引き続き、碧いびわ湖の事業へのご支援とご協力をたまわりますよう、心よりお願い申し上げます。

2014年5月

特定非営利活動法人 碧いびわ湖
代表理事 村上 悟

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

● 暮らしづくり ●

碧いびわ湖では、廃食油のリサイクルせっけん「びわ湖」をはじめとするせっけん類、牛乳パックを原料にしたリサイクルティッシュとトイレロール「おかえりティッシュ」と「ただいまロール」、愛東産菜種油「菜ばかり」、「どっぽ村」のお米、びわ湖材の間伐材使用紙「kikito ペーパー」など、買い手と作り手のつながりをはぐみながら、暮らしと地域を元気にする買い物（共同購入事業）とリサイクル事業をおこなっています。

2013年度は、子育て広場（後述）での事業の紹介と、買い手と作り手の顔の見えるつながりに力を注ぎました。その結果、共同購入の利用者数は532名（前年より96名増）となりました。

愛東の若手農家さんのぶどうの共同購入を試行しました。

2013年9月、NPO愛のまちエコ倶楽部さんからの相談を受けて、新規就農された若手ぶどう農家、漆崎さんご一家のぶどうの共同購入を試行的に行いました。たいへんおいしいと評判で、46名の方に、合計160袋ご購入いただくことができました。次年度も引き続き実施予定です。

地域	消費税込	消費税別	消費税別
お宮	9月11日(水)	9月13日(金)	9月17日(水)
注文締切日	9月 8日(金)	9月13日(金)	9月17日(水)



↑ 漆崎さんご夫妻
←案内チラシ

どっぽ村見学会を開催し、交流を深めました。

どっぽ村で暮らし働く人々との交流、お米の生産地や大工小屋の見学、大豆の選別体験などを目的として、2014年1月18日（月・祝）に、どっぽ村見学会を開催しました。約50名の方々にご参加いただき、交流と相互理解を深めることができました。次年度も引き続き開催したいと考えています。



↑ おうちの見学



↑大豆の選別体験
←大工小屋の見学
みんなでの語り合い→

関西ミルクロードの会の工場見学ツアーを開催しました。

ただいまロールとおかえりティシュの購入代金の中から積み立てられた「一円基金」を活用し、日頃から牛乳パックの回収にたずさわっていただいている方々を対象に、愛媛のリサイクル工場（株式会社イトマンと愛媛パルプ協同組合）の見学ツアーを2013年7月25日に行いました。

株式会社平和堂、生活協同組合コープしが、東近江市生活環境課、社会福祉法人虹の会などから、さまざまな方々にご参加いただき、充実した学習と交流の一日になりました。滋賀県立大学グリーンコンシューマサークルの協力を得て見学レポートを作成し、碧いびわ湖の定期発送やイベントなどで配布しました。また、インターネット上でも情報発信ができるように、関西ミルクロードの会のフェイスブックページも制作しました。



↑製造工程の見学



↑記念撮影



ツアーのレポート→

● 住まいづくり ●

碧いびわ湖では、「身近な自然とつながる住まい」を合い言葉に、雨水、太陽熱、薪やペレットなど身近な自然を活かした暮らしを実現するための住まいづくり事業をおこなっています。具体的には、雨水タンク、太陽熱温水器、薪ストーブやペレットストーブの設置、木製二重サッシの取付などです。

2013年度は、雨水を洗濯やトイレに使う大型の雨水利用システムと、太陽熱利用システムの普及と技術開発に注力しました。その結果、雨水タンクは30件（前年比18件増）、太陽熱温水器は17件（前年比11件増）の設置ができました。

綾さんのお家が完成。オープンハウスを開催し雨水洗濯も広がり始めました

3.2トンの地下雨水タンクと太陽熱温水器、薪ストーブ、木製二重サッシを備えた、綾亨さん・牧生さんご一家のお住まい（草津市）が2013年4月に完成しました。ご一家のご協力のもと、6月から3月にかけて、計7回のオープンハウスを開催し、50組以上のご家族に見学していただくことができました。

雨水を使った洗濯の快適さと心地よさ、太陽熱温水器のガス節約効果、薪ストーブの温かさや便利さ、そして、自然の恵みを実感できる暮らしの中で子どもたちに起きる意識の変化について、参加者で分かち合うことが出来ました。

見学者された方の中から、4名の方が早速、大型の雨水利用システムと太陽熱温水器を導入してくださいました。

なお、綾さんはこのお家づくりで、2014年3月、草津市主催のくさつ・エコスタイルコンテスト 家庭・個人の部で見事、大賞を受賞されました。



↑ 雨水コレクター



↑ 地下雨水タンク (3.2 t)



↑ ↓ 太陽熱温水器 (草津)



(守山)



↑ 雨水洗濯の説明



↑ ペットボトルで泡立ち実験



↑ 地上型雨水タンク (1t・守山)

大津市比叡平で学習会を開催。まちぐるみでの雨水タンク設置も。

県内各地で自立循環型の暮らしづくり、地域づくりに取り組まれているグループの方々の協力のもと、住まいづくりの学習会を開催しました。大津市の比叡平では、学習会に参加された方の中から7名の方が雨水タンクを同時に設置され、まちぜんたいで合計1.4tの雨水貯留ができるようになりました。

2014年3月に「水循環基本法」と「雨水基本法」が成立したことや、近年、地域でのエネルギー自給に向けた機運が高まってきたことを踏まえ、次年度は、このような地域コミュニティでの自主的な活動に、県や市町とも連携をしながら、さらなる参画をしていきたいと考えています。



↑ 比叡平での学習会



↑ 雨水タンク まる140



↑ 雨水タンク ホームダム

● コミュニティづくり ●

碧いびわ湖では、「子どもと大人が自然の中で遊び学ぶ場」づくりをはじめ、地域のお年寄りの記憶を元にして未来の暮らしを考えていく取り組みや、地域の資源やエネルギーを活かしたまちづくりなど、自分たちが暮らす足元の地域から、身近な人たちと力を寄せ合い、暮らしの基盤をつくりなおす、コミュニティづくり事業に取り組んでいます。

2013年度は、栗東のたまたまばやしと守山の目田川を拠点に、子育て広場の活動に取り組みました。たまたまばやしでは「コミュニティビルド」による炊事小屋づくりもおこないました。また、安土ではお年寄りの聞き書きを元に「ふるさと絵屏風」を制作する活動や、西の湖の自然を知り、伝える活動グループ「ちょっと気になる研究所」の設立にも参画しました。

栗東ー「真冬のたまたまフェス」を開催。みんなで炊事小屋を建てました。

「子どもたちと自然の中で遊び学ぶ場」として、栗東の里山で「たまたまばやし」の整備を進めました。毎月の定例作業に加え、2014年1月25(土)～26日(日)には「真冬のたまたまフェス」を開催しました。お話し会やお楽しみイベントとあわせて、コミュニティビルドでの炊事小屋づくりをおこないました。2日間でのべ191名の方にご参加いただきました。

小屋の建設にあたっては、約70万円の費用のうち、42万円を助成金(平和堂財団夏原 Grant)で、残り約28万円を寄付でまかないました。小屋に雨水タンクが設置できたことで、炊事の際の洗い物や作業具の汚れ落としなどができるようになりました。

次年度は、さらなる活動の充実を図りながら、活動を持続させていくための仕掛けづくり、仕組みづくりに取り組む予定です。



↑子育てのお話し会



↑小屋づくりと雨水タンク設置



↑完成した炊事小屋

守山ー目田川で子育て広場を開始。ライフスタイルマガジンも発行。

水辺での子育て広場として、NPOびわ湖豊穰の郷のみなさんが長年管理してこられた守山市内の人工河川、目田川で、子育て広場をはじめました(毎月第4月曜開催)。

自主保育「くじらハラッパ」を主宰されてきた綾牧生さんと北岡七夏さんを中心に、子どもたちが自然の中で遊ぶのを見守りながら、お母さん同士も交流をできる場です。

守山市での取り組みは、市の「市民提案型まちづくり支援事業」にも採択され、「ホテルの住む守山らしい暮らし」を提案するライフスタイルマガジンを発行することができました。碧いびわ湖の提案するせっけん生活や住まいづくりについても掲載し、広く守山市民の方に紹介しました。

これらの活動を通じて、粉せっけんびわ湖や菜種油などを購入してくださる方や、雨水利用や太陽熱利用を導入してくださる方も増えてきています。

次年度は、マザーレイクフォーラム（後述）とも連携し、地域のNPO、自治会、市、企業などとの連携しながら、事業の継続と広がりを進めていきたいと考えています。



↑土手で交流
←川遊び



↑ライフスタイルマガジン

安土ー西の湖と共に。絵屏風づくりやツバメのねぐら入り観察などを実施。

安土では、安土町商工会や老蘇まちづくり協議会などの地域団体と連携し、お年寄りからの聞き書きをもとに地域の原風景を描く「ふるさと絵屏風」づくりをすすめました。また、近江八幡市の事業を受託し、西の湖の自然を発信する住民グループ「西の湖ちょっと気になる研究所」の設立に参画して、ツバメのねぐら入り観察会などを行いました。

次年度は、これらの成果を活かしながら、ヨシの利用促進も含め、西の湖の自然の営みと共にある暮らしを地域でつくり広めていく活動に、引き続き参画する予定です。



↑ふるさと絵屏風づくり



↑ツバメのねぐら観察会

● つながり と ひろがり ●

あまいろ探偵団に新メンバーが加入し、さらにリニューアル。

碧いびわ湖の情報紙「あまいろだより」の編集メンバーに、2014年2月から新メンバーが3名加わりました。

編集委員の幅が広がり、今まで以上に広がりと深まりのある私たちのメディアとなりました。



マザーレイクフォーラムで多様な主体の連携を進めました。

2012年から、滋賀県のマザーレイク21計画（琵琶湖総合保全整備計画）に基づいて設置された「マザーレイクフォーラム」に参加しています。2013年度は「第3回びわコミ会議」の開催や、「マザーレイク曼荼羅」の作成などに参加し、行政、NPO、企業の枠を超えた連携づくりに取り組みました。



次年度は、地域での連携づくりに関するワーキンググループを立ち上げ、多様な主体の連携のつくり方や、成果評価のあり方の検討などについても参加していく予定です。



滋賀グリーン購入ネットワークで「暮らし」からのアプローチを強化。

滋賀県内の行政、企業、NPO等が一体となってグリーン購入の普及をすすめている滋賀グリーン購入ネットワークが、2013年に一般社団法人になりました。

理事会や幹事会などの場を通じ、同ネットワークのビジョンづくりに参加したほか、自治体や企業の組織的な取り組みを促すこれまでの活動に加え、一般の市民や自治体職員、企業の従業員の方々が、みずから暮らし方や買い物のし方を変えていくことを促す取り組みについても力を注いでいくよう、はたらきかけをおこないました。また、12月に開催された市民向けイベント「三方よしのエコフェスタ」にも参加しました。



次年度以降も、同ネットワークと連携し、一般の市民や自治体職員、企業の従業員の方々へのはたらきかけに取り組んでいきたいと思えます。

自然エネルギー事業者育成事業「まちエネ大学」の運営に参画しました。

太陽光や小水力、バイオマスなど、地域にある自然エネルギーを活用する事業者を育成する「まちエネ大学」（経済産業省主催）の地域運営サポーターとして参画しました。県地域エネルギー振興室、滋賀銀行さんと共に講座を運営し、県内外で自然エネルギーを活かした地域づくりに取り組み始めている方々と、学びの場を共にさせていただきました。



GREEN POWER
WORK SHOP

この講座運営で得られた知見とつながりを活かし、自立循環型の地域づくりの取り組みの中に、地域自然エネルギーの活用を位置づけていきたいと考えています。

セヴァン＝スズキさんの講演会の開催に参画しました。

1992年の国連リオサミットで伝説のスピーチをしたことで知られるセヴァン・スズキさんの全国ツアーに協力し、安土のやすらぎホール（現在、西の湖すてーしょんに名称変更）での講演会の開催に参画しました。

滋賀に根差し、自分の足元から、さまざまな取り組みをしている人々が一堂に会し、交流し、想いを共にするひとときとなりました。

次年度以降も、こうした仲間が定期的集まり、語り合う場を継続的につくっていきたいと考えています。

